

ワット・ビット連携関連実証事業

○ ワット・ビット連携関連実証事業

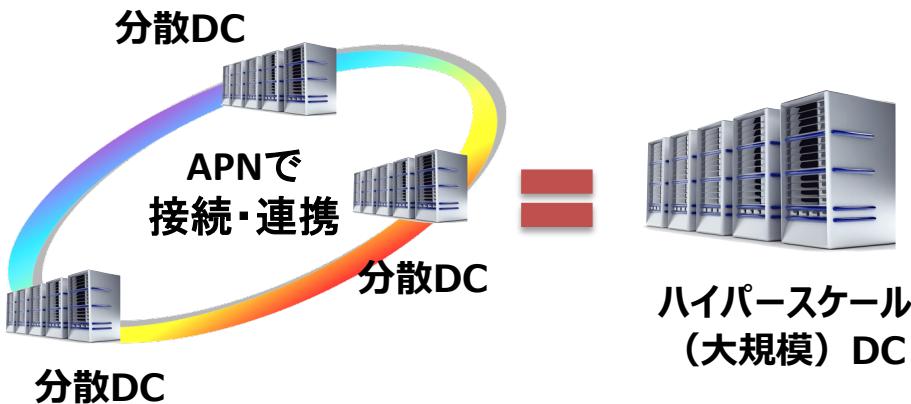
- 経済活動に不可欠なAI等のデジタル技術の社会実装に当たっては、基盤となるデータセンター(DC)の立地を戦略的に地方分散し、サービスの早期・全国展開が容易で、災害に強い環境を構築することが重要。
- DC事業者による、新しい通信・コンピューティング技術を用いたDCの地方分散(分散DC)を促進するべく、これらの技術の実環境・実運用での性能を示し、事業予見性を高めるための実証事業を実施。

実施予定内容

- APN※を活用したDC運用のユースケース拡充

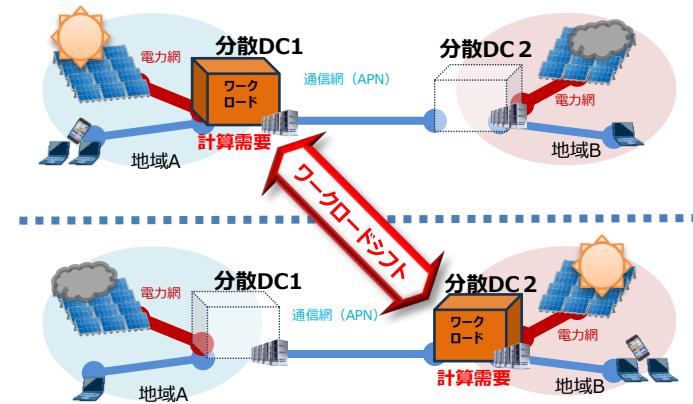
小規模分散データセンター間をオール光ネットワークで接続し、仮想的な大規模データセンターとして運用する実証事業等を実施。

※All-Photonics Network



- 高度なワークロードシフトの実証

地域や時点で変動するデータ計算需要に対応できるように、晴天等により発生した再エネ等の余剰電力等を活用して、DCのワークロードを柔軟にシフトすることが可能となるよう、地域DC間における電力供給やDC需要を瞬時に調整等が可能な実証し、実運用に向けた仕組みを構築していく。



<ワークロードシフトのイメージ>

ワット・ビット連携関連実証事業

令和8年度当初(案) 12.0億円 令和7年度補正 21.0億円 (新規)